

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042-754-3604
担当部課名	生涯学習部	図書館	管理	係
事務事業名	施設維持補修費		事業コード	15130

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	~63
施策名	第3施策	生涯学習関連施設の整備	

2 実施根拠及び関連法令等

図書館法
------

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
生涯学習施設として、現市立図書館が昭和49年11月開館して以来27年が経過した。施設としての老朽化が進む中で、図書館利用者に安全で気持ちよく利用していただくため、施設維持のための補修、施設修繕にかかる箇所も多岐にわたってきている。こうした状況の中で、施設維持に要する効果的・計画的な予算執行、適正で効率的な修繕計画がより重要となっている。		図書館利用者	
		対象数	約26万人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
効果的で効率的な施設修繕、補修を行ない安全で安心して利用できる施設として、以下の点に重点をおいて実行。(1) 施設内外の補修箇所の速やかな対応 (2) 施設、設備の使用上安全の確保 施設維持補修費29,937千円(20箇所)		21世紀総合計画における「生涯学習関連施設の整備」 < 図書館整備の推進 > ・市立図書館再整備事業	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度
		なし	

4 評価指標

指標名	施設維持補修・修繕対応処理率	施設老朽化に伴う補修・修繕処理率
指標式	各年度における補修・修繕対応件数 ÷ 補修・修繕要望件数 × 100	各年度における施設老朽化による補修・修繕件数 ÷ 補修・修繕総件数 × 100
指標設定の意図	各年度における修繕要望等に対し、修繕の対応ができた数値を比較する。	各年度における施設老朽化に伴う補修・修繕処理、対応件数の数値を比較する。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	57.1	50.0	a 114.3	b 142.9	150.0	
指標	80.0	81.3	c 80.0	d 81.8	84.2	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	9,497	1,998	29,937	30,000	4,759
	人員・時間数	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)
	人件費	803	803	803	803	803
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	10,300	2,801	30,740	30,803	5,562
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 88.9%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b}$	$\frac{114.3}{142.9} \times 100 = 80.0\%$	$\frac{c}{d}$	$\frac{80.0}{81.8} \times 100 = 97.8\%$
		$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$
理由:	各年度において、施設補修・修繕総件数に占める施設老朽化に伴う修繕件数が8割を超える状況にあり、今後更にこの比率は高まることが予想される。より適正で効率的な修繕計画及び予算対応が必要である。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	施設利用者の安全、利便性の維持をはかるための施設維持補修に係る経費は、施設利用の継続性を保つためには必要である。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	市立図書館施設の老朽化と合わせ、当該施設維持のために有効で効果的な施設維持補修経費は、今後も必要である。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	施設維持補修に関するものであり、代替の可能性はない。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	利用者からの予算対応に伴う修繕要望箇所等については、計画的な修繕計画と合わせ、その予算化等に時間がかかる場合もあり、十分満足されているとはいえない。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	施設維持補修のためには有効である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> 施設維持のために、適正で効果的な修繕は今後も必要である。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> 施設維持のために、必要な経費である。

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較		特記するもの、特になし
	今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	各年度において、施設補修・修繕総件数に占める市立図書館施設老朽化に伴う修繕件数の割合が8割を超える状況にあることから、市立図書館再整備計画との整合性と合わせ、適正な補修・修繕計画及び効率的で計画的な予算対応が今後とも必要である。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--